

〔しのざき文化プラザ 第18回 企画展示〕

見る・知る・楽しむ、江戸川区内のアートのスポット。

見て触って！体験型アート「江戸川百目きのこ」って何？



発掘！浮世絵師が描いた〈えどがわ景色〉。

「おや!?」、楽しく体感、トリックアート！

芸術の秋、感性も呼吸する。

えどがわ、アートな日和。

2012年9月22日(土)～12月16日(日) [入場無料]

主催：江戸川区・東京文化プラザ指定管理者株式会社/ブリンクサービス

協力：三上邸、株式会社石谷コンテンポラリーアート、新華社、中日新聞社、メグミオギャラリー、山本現代、今治の丸三画廊、江戸川区美術館、劇団こけし、都立三軒茶屋、渋谷区立清見美術館、東京都立文芸館、東京藝術大学大学美術館、尾崎一軒/尾崎山形美術館、東京都立美術館保存委員会、大久保博行、小久保博行、山田文男、竹内真、長澤幸生、杉本竜雄、安山誠樹

しのざき
文化
プラザ

しのざき文化プラザ 3F企画展示ギャラリー

江戸川区篠崎町7-20-19 3F TEL.03-3676-9071(代)

都営新宿線・篠崎駅西口直結 開館時間/9:00～21:30

www.shinozaki-bunkaplaza.com



たどる／つなぐ／つぎへ

本企画展示では、

江戸川区にゆかりのある江戸期の浮世絵、

近代の美術作家、

そして現在も活躍するアーティストをはじめ、

区内の美術館や教育・振興活動に取り組む個人や団体、機関を紹介いたします。

「アート」というものに触れ、

芸術というものをより身近に感じ、

「知る」「観る」ということに興味を抱いていただける。

そんな秋の白駒となるような、心づなわり、「アートな白駒」展を心から開催いたします。

TADORU/TSUNAGU/TSUGU/TSUDOU



「障害の有無は関係なし。
大切なのは、みんなで
楽しく学ぶこと。
アートの世界は平等です。」

「みんなの楽校 ボランの広場」は、芸術活動を通して知的障害者のサポートや
人々向けの研修会を行っています。芸術活動の基盤が「ボランの広場」に整備する
障害者の生活にもやり、障害者の参加に際わらず、誰もが楽しく学べる場所を目指
して、2006年3月平成18年3月に活動を開始しました。2校建ての建物1階は
がフェスティバルになっており、2階では音楽・絵画・彫刻・人々の援助の「アート
」をはじめとするワークショップや教室が展開されています。

代表の高津陽子さんは、21年間の小学教員としての人生の中で、知的障害者の
教育にも携わりました。障害者以下児、ドイツのシュンペルターへ留学し、そこで
芸術的感性を重視するシュンペルター教育を学んだ経験が、現在の活動に繋がって
いるそうです。

「作品制作で大切なのは知識ではなく（感性）です。障害があるかどうかは関係
ありません。その意味で、アートの世界は平等。誰もが持っている感性を表現させて
あげることが、私たちの役割だと思います。また、ボランの広場以外にも、ボラン
ティブで地域の子どもたちを対象にした芸術教室を開催しています。みんなが
楽しそうにしている姿を見ると、私は生かせるエネルギーが湧いて元気になるん
です。今後もまだまだ力を得ながら積極的に活動していきたいですね。」

（みんなの楽校 ボランの広場 代表 高津陽子さん談）

みんなの楽校。ボランの広場 Art Square of PORAN

みんなの楽校 ボランの広場

〒201-8501 東京都武蔵野市

武蔵野 1-1-1

TEL 0422-57-1111

FAX 0422-57-1112

※本館の受付は、10時から17時までの受付時間です。休館日は、月曜日から土曜日。

江戸川区美術会

1952年(昭和27年)、洋画家の多田栄二さんを初代代表委員として創立。戦争の影がまだ残り、人々が生活の不安を抱える時代、「美術に触れることで安らぎを見出してもらおう」と、江戸川区在住の美術家が集って美術展を開催したのが始まりです。現在は江戸川区唯一の美術団体として、地域文化への貢献を目指して活動。会には日本画、水墨画、水彩画、油彩画、彫刻、工芸、写真などの部門があり、春に選定展、秋に区文化祭美術展を開催し、区民にも公開しています。現在会長は小久保晴行さんが、副会長は川田文男さんなどが務めています。

えどがわアートスポット



杉山美術館 Sugiyama Art Museum

「誰にでも身近なものとして、
芸術を地域に根づかせたい。」

杉山美術館は、(現代印象派の巨匠)と称されるスペインの画家、ホアン・ド・ソリアリャの活動画7点が常設展示されている。日本でも希少な個人美術館です。ある時、院長の杉山浩久さんは、同画廊「コンセン」を訪ねて、ペラスケスの画家を巡らせる元と初期の経緯は衝撃を受け、見る者を魅了の中に引き込むソリアの芸術に魅了されていました。以来、「コンセン」の「ソリアの芸術」、「ヴィラベルディーの法」などの作品を数年かけて収集。より多くの人に美術の楽しさに触れてほしいという思いで、2004年(平成16年)11月、生まれ育った江戸川区に本美術館を開館しました。

開館はソリアをはじめ、ベルギー・ル・ボクレー、アントン・ヴァン・ドーク、等々、東京、京都、熊本、長崎などの作品を所蔵しています。これらの作品を含め、ジャンルにとらわれず魅力ある作家を美術館と手塚3回の企画展示にて紹介。開館ではトイズ美術館ながら、日本国内だけでなく海外からもお客様が訪れるようになりました。

「この地域には、気軽にアートに親しめる場所がまだまだ少ないように思います。今後は、子どもから大人まで参加できるワークショップや、江戸川区を拠点に活動する作家の企画展などを積極的に開催していきたい。これらの活動を通じて、芸術文化が身近なものとして地域に根づき、江戸川区が新たな魅力の心とつなげられるといいです。」 (杉山美術館 院長 杉山浩久さん談)

杉山美術館

江戸川区東葛西5-1-1
TEL 03-3645-1111
〒135-0045 東京都江戸川区東葛西5-1-1
開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 木・金・土・日・祭日・年末年始(12月29日～1月3日)



造形部長大田

ZOKEIBUCHO Oota

「モノづくりはやっぱり楽しい！」
フツーな主婦のアートな実感。

作家の名は「造形部長大田」大田さん。オルタナティブ人間劇場「創造の現場」で陶芸アーティストなどの最近の集時を兼ねながら創作活動される種別・活動家型を追求しています。創造力か「造形部長」という役割をその言葉に創作活動を通じています。

当初、多摩美術大学では陶芸を学び、卒業後はアート活動から離れ、主婦として子育て中心の日々。2010年（平成22年）、大学の同級生でもあった創造を志す現代美術家の岡田裕子さんからの呼びかけで参加者として参加。子どもたちも手が付けられなくなったことから、創作活動も再開しました。

「江戸川区民館には1999年（平成11年）、設立時から参加してきました。江戸川区に在住する人たちは、子どもを育てるには「頑張らなきゃ」と、いろいろな部会に参加していました。中には自宅での創作をアトリとして、毎月1500円の会費を納めながら創作活動に臨んでいます。作品を売りたいという意欲ははからずと受けをしながら、制作に集中する時間が増えたり減ったりして……。それでも子どもたちの持ち物や、ちょっとした贈物などを卒業の証として作っていました。子どもたちが中学生の頃は、学校行事に使う品物を制作する機会も増えてもらってこともありました。どんな形であっても物作りはやっぱり楽しい。これからは、子育てを、さらにアートは更に楽しくながらも、可能な限り創作活動を続けていきたいです。」

（造形部長大田さん談）



大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家

大田 裕子（おおた ゆうこ） 東京都江戸川区在住、40歳、主婦、陶芸家、作家、アーティスト、活動家



多田栄二

宗像庄一郎

竹内梅治郎

菊池公明

浮かぶのは懐かしい顔、顔、顔……。

1992年(平成4年)の調査から、23の自治体で組織が設置してあり、21の自治体で、その組織に所属した竹葉の含有成分について、調査・分析を実施した自治体は、10自治体であった。調査・分析を実施した自治体の数が増えている。

【世界日報專稿】由美、日兩國政府所組成的「國際核子燃料銀行」(INFC)已於本月八日正式成立。該組織的宗旨是為發展中國家提供廉價的核子燃料，以促進其經濟發展。

江戸名所百景・中川口より

さざご一緒に
えどがわアートを
巡りましょう

